

令和2年8月 定例教育委員会々議録

1 日 時 令和2年8月21日(金) 午後1時30分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室301

3 出席委員の氏名

教育長	遠藤 浩	教育長職務代理者	山崎 克弥
委員	中野 信男	委員	秦 久美子
委員	斎藤 純郎	委員	小林 恵子

4 説明のため出席した職員

主 幹	鈴木 華奈子		
学校教育課長	太田 和行	子育て支援課長	白井 健次
社会教育課長	石田 進一	統括指導主事	大森 亨

5 本委員会書記

学校教育課 向井 康弘 他1名

6 傍聴人

1名

7 会議に付議した事件

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

報告第8号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第1号 新規共催・後援申請について

議 案

議案第 51 号 燕市子ども・子育て会議委員の委嘱について

その他

8 閉 会

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言                    午後 1 時 29 分～

2. 会議録署名委員の指名      小 林 恵 子 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定

〈各課長が報告〉

○委員（斎藤 純郎）

広島平和記念式典派遣事業が新型コロナウイルス感染症拡大防止の関係で中止となったが、代替策について教えて欲しい。

○学校教育課長（太田 和行）

広島への派遣は中止となったが、DVD を借りて中学校の生徒たちがその DVD で学習を行った。また毎年行っている折鶴の作成は今年も同様に行い、広島へ送り届けた。

(2) 教育長報告

〈遠藤教育長が以下のとおり報告〉

子供たちにとって本当に短い夏休みが終わった。子供にとって、遊びも学びの一つなのだろうから、今年の夏の子供たちの成長は小さいのだろうか。そうであっては困るのだが、きっと多くの子は「諦める」ということを学んだのであって、何かに夢中になることはできなかったのだろう。間違いなく「コロナ世代」の誕生である。

大きな災害があると、子供たちの心のケアにも注目が集まり、学校にカウンセラーが派遣されたりする。しかし、コロナ世代に対する心のケアはカウンセラーが得手とする守備範囲ではないと思う。災害で傷ついた心、その心の声を聴くことからカウンセラーは始めることになるだろう。コロナ禍による心の傷？は、恐怖などによる心的ストレスとは異なるのではないだろうか。コロナ禍が子供に与えたのは、命を守るためには仕方がないと「諦める」ことである。やる気みたいなものを削いだはずである。

そんな子供たちの顔をあげさせ、前を向かせるのは教員の仕事である。教材となるものを与え、考えさせ、まとめさせ、発表させたりする。その流れの中で、諦めたことをしっかり受け止めさせる。ごく当たり前の授業でいい、あまり特別なことはしなくてもいい。

繰り返すが、今学校に求められているのは、単純なカウンセリングマインドではない、教員の指導力なのである。ここで立て直しておかないときっと学年が進むにつれて不登校傾向を示す子が増えていくことぐらいは誰にだって予想できる。

今年は、広島派遣を行えなかったが、8月は平和を強制的に考えさせられ、どうしても平和を考える月であり、それが世の常である。原爆の日があり、8月15日の終戦の日があるからだろう。現在の式典の映像と当時のモノクロ映像、砲弾とともに死体が映し出される。

担任をしているときには、夏期講習の合間に「きけわだつみのこえ」から引用した資料で生徒に戦争とは何かを考えさせていた。

ところで、こうした死を前にした手記のようなものを読んでいると、どことなく死が美しいもののように感じそうになる。愛するものを守るために死ぬ。それは正しい愛の形なのかもしれない。しかし、それが教育によって作り出されたとするならば、その教育のあり方そのものが間違っていたはずである。教育は死に方を教えるのではなく、あくまでも生きる術を教えるべきなのである。戦没学生の手記にあるとおり、数学好きな学生は戦場に行っても数学を考えている様子がうかがえる。私も同じ立場になれば数学のことを考えるのだろう。こんな人には、なんとしても生きて帰ってきて、教員になってほしかった。

今のコロナ禍を短時間で解消する方法は、どこかで大きな戦争が発生することではないだろうか。中国とアメリカが自国以外の地域で戦争を始めれば、お金は動く。コロナ騒動などそっちのけで、ミサイルの発射の瞬間が繰り返し放送されるだろう。きっと経済が上向ききっかけになるのではないか。クリミアでもいい。

紛争とか戦争が始まれば武器という商品で経済は回復するだろう。罪のない人間の命との交換である。他に何かいい策があるのだろうか。愚かな人間であり続ける限り、注目の矛先を変えることでしか事態を乗り越えられないのかもしれない。

人間は愚かだから、コロナで閉塞感が出てくると、戦争を始めるかのように目先を変える方法を考えてしまうのでないかという気がしてならない。私は、そんな愚かな人間ばかりでないことを願っている。

### (3) 寄附報告

3件の寄附について

〈太田学校教育課長、石田社会教育課長が説明〉

#### ○委員（中野 信男）

寄附された書跡とはどのようなものなのか。

○社会教育課長（石田 進一）

扇子の様なものや鈴木文臺の書などである。寄附者は元々長善館の校舎であった宿舎を移築して住居を建てた子孫の方であり、その方が住居を取り壊す際にこの寄附をいただいた。

4. 専決処分の報告について

報告第 8 号 共催・後援の教育長専決報告について

3 件の後援について

〈No.3 について太田学校教育課長が説明〉

〈No.1、2 について石田社会教育課長が説明〉

5. 議 案

議案第 51 号 燕市子ども・子育て会議委員の委嘱について

〈白井子育て支援課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく議案第 51 号は原案通り議決された。

6. 閉 会            午後 1 時 58 分

燕市教育委員会会議規則（平成 18 年燕市教育委員会規則第 2 号）第 17 条第 2 項の規定により会議録に署名する。

令和 2 年 9 月 29 日

教 育 長 山 田 公 一

会議録署名委員 小 林 恵 子

会議録調整者 向 井 康 弘

## 別 添

### 8月定例教育委員会「教育長報告」における不適切な表現について(お詫び)

このたび、令和2年8月21日に開催された定例教育委員会にて配布した「教育長報告」の内容の一部が不適切であるとのこと指摘を受けました。

当該部分の内容については、現在のコロナ禍において、社会全体に閉塞感のようなものがあり、それを打開する方法として、戦争や紛争をはじめしてしまうのではないのかという、人間の愚かさを憂いたものです。閉塞感を何か別のものに置き換えて矛先を変えることが人間にはよくあることのように思っているのです。

しかしながら、当該部分の文章表現から、そこまでを読み取ることは難しい文面になっていたと、ご指摘を受けました。その真意は別にあったとしても、教育者、教育長という立場にあった者の表現としては、不適切でありました。このことから、引き続き、教育長の職にあるべきではないと考え、市長に、教育長の職を辞することを申し出、市長から、9月24日の9月議会最終日をもって辞職することを承認いただきました。

9月4日に開催された臨時教育委員会にて、「実際に教育長が話した内容を加筆等すること」について、教育委員から提案され、可決されたことをうけ、このたび、8月21日の定例教育委員会の会議録に加筆等し、ホームページに再掲させていただきました。

あらためて、当該部分の文章は表現が不十分であり、児童生徒、保護者の皆様、教育関係者の皆様、市民の皆様に不快な思い、大きな不安を与えてしまいましたことに重ねて深くお詫び申し上げます。誠に申し訳ありませんでした。

今後、燕市教育委員会は、失った信頼回復に向け、職員一丸となって市教育行政に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和2年9月11日

燕市教育委員会  
教育長 遠藤 浩